平成30年11月30日

平成３０年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３０年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成30年4月17日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	16人	算数	16人	理科	16人
第５学年	国語	15人	算数	15人	理科	15人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

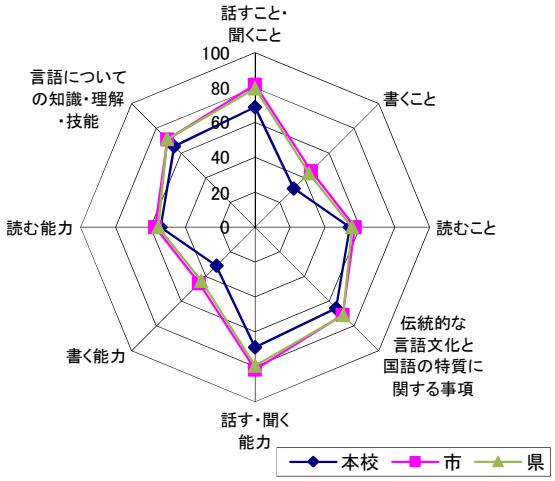
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立〇〇〇小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	68.8	81.6	79.4
	書くこと	31.3	45.4	43.6
	読むこと	54.2	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.6	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	68.8	81.6	79.4
	書く能力	31.3	45.4	43.6
	読む能力	54.2	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	65.6	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

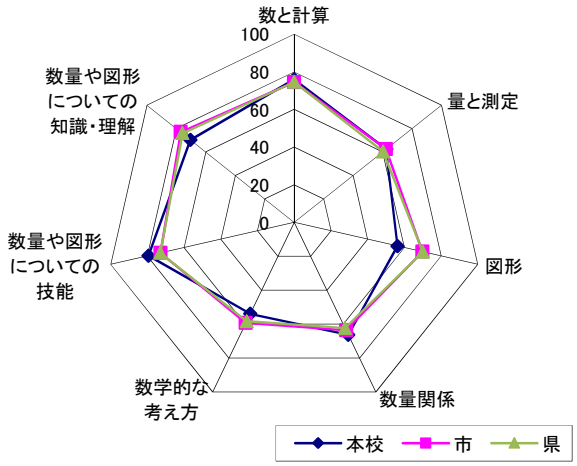
〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の正答率は68．8%で，県の平均を10．6ポイント下回っている。 〇「理由を挙げながら筋道を立てて話す」ことについての設問の正答率は93．8%で，県の平均を13．9ポイント上回っている。 ●「話合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」ことについての設問の正答率は62．5%で，市・県の平均をおよそ25ポイント下回っている。	・司会の役割を理解するためには，授業の中で実際に役割を決めて話し合い活動を行うことが必要である。小グループでの話し合い活動から始め，児童が司会などの役割を理解しながら進んで進行できるようにしていく。
書くこと	●領域の正答率は31．3%で，県の平均を12．3ポイント下回っている。 ●「文章構成を意識して報告レポートを書く」ことについての正答率は50%で，県・市の平均をおよそ20ポイント下回っている。また，記述式の問題は無解答率も県・市より高く，課題が見られる。	・聞くことや読むことの指導にも共通するところがあるが，話の内容を的確にとらえ，それを基に文章を書く力をつける必要がある。短作文やリレー作文などで内容を整理しながら気軽に書く機会を多く設けたり，日頃からの日記指導を通して，抵抗感なく書くことへの力を付けさせていきたい。
読むこと	〇領域の正答率は，県の平均と同程度である。 〇「段落の要点を捉えて読む」ことについての設問の正答率は100%で，県の平均を12．1ポイント上回っている。 ●「叙述を基に，主人公の気持ちを想像して読む」ことについての設問の正答率は，37．5%で，県の平均を18．5ポイント下回っている。	・物語文では，どの文から登場人物の気持ちが分かるか，また，登場人物同士の関係はどうかなど，場面の移り変わりに沿って読むことを強化して指導していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●領域の正答率は65．6%で，県の平均を5．8ポイント下回っている。 〇「国語辞典の使い方」に関する設問の正答率は81．3%で，県の平均を11ポイント上回っている。 ●「日常使われている簡単なローマ字」の設問が，県・市の平均を20ポイント下回り，課題が見られる。	・国語や，その他の教科の授業でも，分からない言葉に出会ったときには辞書を引くように声を掛けて習慣づけているが，今後も継続していきたい。 ・ローマ字を日頃から書いたり，パソコンでローマ字入力を行ったり，定着を確認しながら身に付けてさせていくようにする。

宇都宮市立〇〇〇小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.0	74.5	74.6
	量と測定	62.5	62.4	60.4
	図形	56.3	69.9	70.1
	数量関係	66.3	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	53.9	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	79.4	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	70.5	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

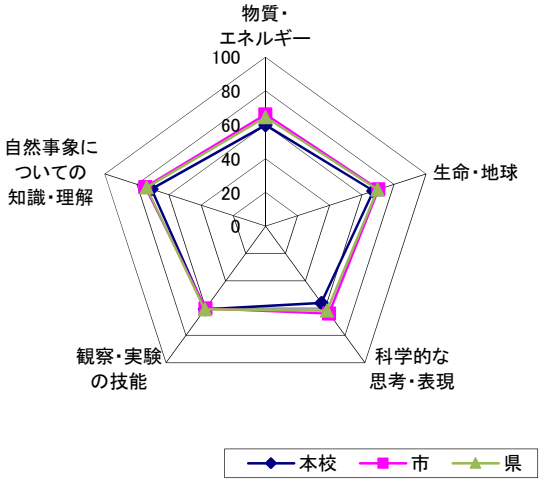
〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	〇領域の正答率は，76%で，市・県の平均と同程度である。 〇四則計算に関する設問の正答率は県・市の平均を上回っている。特に3位数×2位数の計算は20ポイント高い。 ●「計算の順序に合うように()を書き入れる」ことについての設問の正答率は43．8%で，県の平均を26．8ポイント下回っている。	・計算力の向上を目指し，個別指導をした成果が出ている。 ・「交換のきまり」や「結合のきまり」など，計算のきまりを復習し，正しい計算の順序を理解できるように再度指導していく。
量と測定	〇領域の正答率は62．5%で県の平均を2．1ポイント上回っている。 〇「はかりが示す重さを読み取り，みかんの重さを求める」ことに関する設問の正答率は62．5%で，県の平均を7．6ポイント上回っている。 〇「ある時刻に間に合う一番遅い時間の発車時刻を求める」ことについての設問の正答率は43．8%で，県の平均7．1ポイント上回っている。	・実生活の中でも，時刻を意識したり，重さを量ったりする機会を増やしていきたい。しかし，時刻の問題に苦手意識をもっている児童が多いので，意図的に時刻に関する問題に取り組む機会を引き続き増やして指導していきたい。
図形	●領域の正答率は56．3%で，県の平均を13．8ポイント下回っている。 ●「折り紙を二つに折って切った後，広げてできる形を選ぶ」ことに関する設問の正答率は56．3%で，県の正答率を23．8ポイント下回っている。 ●「箱に入った同じボールの半径の長さを選ぶ」ことについての設問の正答率は31．3%で，県の平均を20．6ポイント下回っている。	・実際に折り紙などを使った作業的な活動を通して，ある条件にあった図形が出来上がることを発見するなど，児童が自ら体験して発見できるような学習活動をより多く取り入れていく。 ・球の二等分した切り口が最大になるものが，その球の半径や直径になること，半径は直径の半分であることについて，再度押さえ，ボールを直方体の箱に入れるなど，具体物を使って作業的な活動をすることを通して，日常体験から学ぶことができる活動を増やしていく。
数量関係	〇領域の正答率は66．3%で，県の平均を4ポイント上回っている。 〇「□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ」ことについての設問の正答率は81．3%で県の平均を12．6ポイント上回っている。	・式の意味について理解し，具体的な場面を考えることができる児童が多いが，未定着の児童との差も大いに見られるところである。日常の具体的な場面に数量の関係を式に表す活動を多く取り入れ，より深く理解させていく。また，習熟度別学習に特に力を入れていく。

宇都宮市立〇〇〇小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.8	66.1	64.4
	生命・地球	67.2	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	56.3	64.1	61.9
	観察・実験の技能	60.9	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	71.0	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●領域の正答率は59．8%で県の平均を4．6ポイント下回っている。 〇「実験結果からゴムをねじる回数を推測する」ことに関する設問の正答率は75%で，県の正答率を7ポイント上回り，実験結果から与えた条件を予想できた。 〇「磁石の性質を基に口を閉じる方法が分かる」ことに関する設問の正答率は，81．3%で，県の平均を11．4ポイント上回り，ものづくりから磁石の性質を理解していることが分かる。 ●「物の形と重さや体積と重さの関係が分かる」ことに関する設問の正答率は，37．5%で県の平均を10．5ポイント下回っている。 ●「1つの豆電球と乾電池を使いあかりがつく回路を選ぶ」ことに関する設問の正答率は31．3%で，県の平均を31．9ポイント下回っている。	・木や金属，粘土などでできた同じ体積のものの重さを，実際にてんびんに乗せたり，反射させた光を重ねて明るさを調べたりして体験的に学ぶという活動を再度行い，知識の定着を図る。 ・「電気の通り道」については，4年で学習する「電気のはたらき」と関連している。様々な導線のつなぎ方や回路の例を示し，回路として電気が通るかどうか考えさせる活動を取り入れ，習熟を図る。
生命・地球	●領域の正答率は67．2%で県の平均を2．6ポイント下回っている。 〇「図をもとに昆虫を選択し，その理由を説明をする」ことに関する設問の正答率は75%で，県の平均を8ポイント上回っている。 〇「植物のからだの各部の名称が分かる」ことについての設問の正答率は100%で，県の平均を9．6ポイント上回っている。 ●「虫眼鏡の適切な使い方が分かる」ことに関する設問の正答率は31．3%で，県の平均を19．6ポイント下回っている。 ●「記録からひなたの温度計を選び，その理由を説明する」ことに関する設問の正答率は12．5%で，県の平均を36．2ポイント下回っているなど，記述式の問題の正答率は低くなっていて，課題が見られる。	・観察の結果から判断した根拠や理由を文章に書く機会を多くしたい。また，その際，ペアやグループで話し合う活動を位置づけることで，的確な説明になっているか振り返らせ，改善を図りたい。

宇都宮市立〇〇〇小学校 第４学年 児童質問紙調査

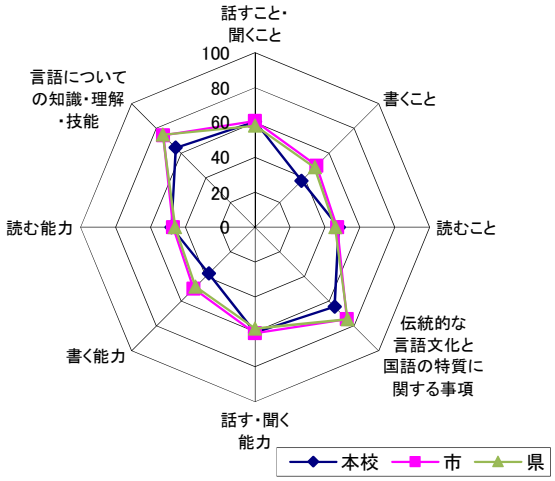
★傾向と今後の指導上の工夫　　〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

〇「家で，自分で計画を立てて学習している。」という質問に肯定的に回答している児童の割合は81．3％で，計画的に学習に取り組もうという姿勢が身についている児童が多いと考えられる。
●「家で，学校の授業の予習をしている。」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は37．5％で，県の平均を19．3ポイント下回っている。復習だけでなく，予習して授業に臨むことでより理解が深められることを伝え，予習の大切さを伝えていくようにしたい。
●「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい。」「難しい問題に出会うと，よりやる気が出る。」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は，県の平均よりも，それぞれ5．5ポイント，11．4ポイント低い。時間をかけてじっくり取り組むような課題や，これまで学習した知識を生かすような課題に取り組む機会を設けて，根気よく学習に向かう意欲を引き出していきたい。
〇「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている。」という質問に，肯定的な回答をした児童の割合は100％で，自らの力で課題に取り組もうという意欲は非常に高いと考えられる。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	60.4	60.8	58.1
	書くこと	37.5	49.8	48.3
	読むこと	47.9	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.4	74.4	74.8
観点	話す･聞く能力	60.4	60.8	58.1
	書く能力	37.5	49.8	48.3
	読む能力	47.9	47.0	45.9
	言語についての知識･理解･技能	64.4	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

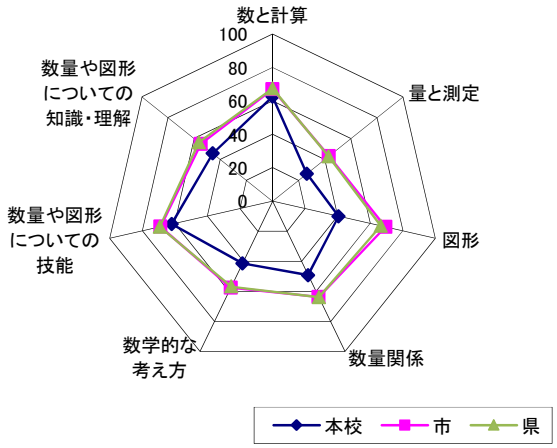
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の正答率は60.4%で県より2.3ポイント高い。前年度と比較して，9.3ポイント上昇した。話し合いについての問題で，話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話すことは理解できている。 ●話し合いの中での意見の共通点を考えて記述する問題の正答率が特に低かった。	･話の内容を正しく聞き取る手立てとして，メモを取りながら話を聞く練習をさせていきたい。聞く観点，だれが･いつ･どんなことをはっきりと意識させるようにし，順を追って話の内容を理解するようにさせる。自分の意見を書く問題においても，話を正しく聞き取っていないと，内容にあった文章は書けないので，これらのことを継続して指導する。
書くこと	●領域の正答率は37.5%で県より10.8ポイント低い。 ○前年度と比較して，4.2ポイント上昇した。 ●書くことの領域全体では，市の平均より12.3%下回っており，資料を活用する問題や，まとめの文を決められた字数内で記述する問題の正答率が低かった。	･資料の活用については，まず資料を読み要約をすることで，内容理解ができるように指導する。また，各目的や相手を意識した表現を考えさせ，日記や新聞，短い意見文を工夫してかせる練習をしたい。
読むこと	○領域の正答率は47.9%で県より2ポイント高い。段落の要点を捉えて要約したり，物語の特徴的な描写を捉える問題の正答率が高かった。前年度と比較して，6.8ポイント上昇した。 ●文章の要点や細かい点に注意しながら読んだり，整理することができない児童が多い。	･全体的な内容を捉えて読み取る問題は比較的よくできているので，話の大きな流れはつかんでいると考えられる。今後は形式段落ごとの内容をまとめさせたり，キーワードに注目して話を読み進める練習をさせ，文脈に即してより正確に読み取る力を育てたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○慣用句の使い方は，理解できている児童が多い。 ●漢字辞典の使い方や漢字の読み書きの問題の正答率が低かった。定着に個人差があり，二極化の傾向がある。	･慣用句の意味を理解して覚え，使い方が分かるように，単に書く練習をさせるだけではなく，文の中に当てはめて練習させる。また，習った漢字は国語以外の学習の中でも積極的に使うように言葉を掛け，児童の習熟に合わせて定着を図るように指導する。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.5	66.9	67.4
	量と測定	26.3	43.2	43.0
	図形	40.6	69.4	66.5
	数量関係	49.2	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	41.3	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	61.9	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	45.8	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

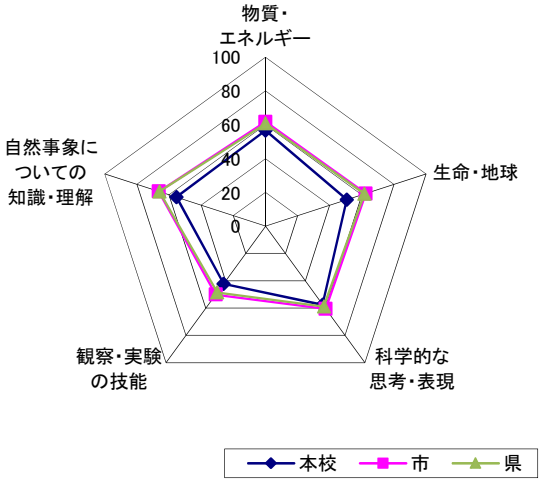
,○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域の正答率は62.5%で県より4.9ポイント低い。 ○同分母の減法，小数の加法・減法の計算は，正答率が，70%を超え，県・市の正答率より高い。 ●3位数と2位数の乗除の正答率は，県・市の平均より10～15ポイント低い。 ●長さの異なるテープについて一方が他方の長さの何倍かを求める問題で県・市の正答率より10～20ポイント低く課題が見られる。	・今後も計算の仕方を振り返ったり，図を用いて演算決定をしたりしながら，児童のつまずきやすい小数・分数の計算の処理を正確に行えるよう指導していきたい。 ・何倍を求めるとき，いつも「倍＝比較量÷基準量」で求めるが，整数倍でなく小数倍になると迷ったことが推察される。数直線や線分図などに表し，理解を深めさせていく。
量と測定	●設問ごとの正答率がすべて県・市の平均を10～34ポイント下回っている。昨年度と比較して，領域の正答率は33.7ポイント低い。長さや面積の数値と実際の大きさが一致していないことが分かる。	・面積の見当をつけたり，単位の仕組みを考えたりしながら，量感と単位に関する知識を身に付けさせたい。 ・実際に歩いて，1mの長さの感覚を身に付けさせることで，教室の縦と横の長さを推測し，面積を求めることができるようにする。
図形	●領域の正答率は40.6%で県より25.9ポイント低い。 ●「与えられた2辺の続きをかいて，平行四辺形を完成する」設問の正答率は25%で県の平均より34.1ポイント低い。基本的な作図ができていないことが分かる。	・図形の約束や性質の学習において，平行になる辺や同じ長さの辺に印をつけさせた上で，図形の特徴と照らし合わせ，どの特徴を用いたのか自覚できるようにしたり，作図したり，丁寧に指導していく。
数量関係	●領域の正答率は49.2%で県より14.7ポイント低い。 ●「1つの式に表した考え方を完成する」設問の正答率は12.5%であり，県より39.8%低い。立式に慣れていないことが分かる。 ○二次元表の欄にあてはまる数を求める問題の正答率は81.3%となっており，よく理解されていることが分かる。 ●領域に関係なく記述式の問題に個人差が見られた。それは無回答率が高いことが原因であり，自分の考えを文章に表すことに課題がある。	・場面や状況を数式に表すことに課題がある。身近なものを図などを用いて表したり，説明したりする活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.6	61.7	60.7
	生命・地球	50.6	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	57.6	60.6	58.9
	観察・実験の技能	42.2	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	55.4	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●領域の正答率は56.6%で県より4.1ポイント低い。 ○空気と水の平均正答率が68.7%とわずかに県の平均正答率より上回っている。 ○ 「水を温めた時の様子を推測する」設問や，「分かったことをもとに容器が割れる理由を推測する」設問の正答率は，県平均をわずかに上回っている。水の性質の理解に一定の成果がみられる。 ●「電気の働きについて．回路図の読み取る」設問や，「光電池の働きと光の強さの関係を考える」設問の正答率が大きく県，市平均を下回っている。電気の働きに関する知識，理解が低い。	・電気のはたらきに関する理解を深めるため，授業中に電気に関する用語を意図的に繰り返して使い，用語と意味の定着を図る。また，乾電池のつなぎ方によって電流の強さが異なることを体験的に理解させるため，検流計で測定するだけでなく，豆電球や扇風機など身近なものを用いて実験を繰り返し行う。 ・思考力・表現力の向上を図るため，授業において自分の考えを根拠を示しながら書いたり，順序立てて発表したりする活動を多く取り入れる。また，理科だけでなく，他教科においても理由を明らかにしながら自分の意見を記述・発表する機会を設け，力を伸ばしていく。 ・基礎力が低下していることから，基本的な問題を理解させる時間を多くとり，分かりにくい部分は何度も繰り返し説明をすることによって基礎力の向上を目指す。
生命・地球	●領域の正答率は50.6%で県より11ポイント低い。 ○結露に関する設問の正答率が43.8%と市，県の正答率より17ポイント以上高い。 ●月と星の単元では基本的な問題ができていない傾向にあり，基本的な知識が定着していない。また，無回答率も高く自分の考えを文章に表す力が不足していると考えられる。 ●方位磁針の名称や正しい使い方の設問正答率が県の正答率よりも4～9ポイント低く，正しい使い方が身についていないことがわかる。	・星や星座の動きについて，知識がより定着するよう，星に関する単元を学習している時だけではなく，年間を通して星の観察をする機会を定期的に設ける。 ・実験を通して方位磁針など正しい道具の使い方が身に付くよう，机間巡視し，理解できていない児童に対しては再度説明をする。また，実験の時間を長く設定し，児童１人１人がより多く実験器具にふれられる機会を多くする。 ・基礎力が低下していることから，基本的な問題を理解させる時間を多くとり，分かりにくい部分は何度も繰り返し説明をすることによって基礎力の向上を目指す。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○学ぶ意欲では，勉強をしていて，おもしろい，楽しい，不思議だな，なぜだろうと興味をもって学習に取り組む児童が約81%と前年度と比較して高くなった。また，90%の児童が具体的な将来の夢を持ち，学校での学習が将来の仕事や生活の中で役に立つと考えている児童は87%と高い。
○自分の考えを深めたり，広げたりすることができている児童が75%，さらにクラスは発言しやすい雰囲気と感じている児童は81%である。発表しやすい環境づくりはできていると考える。
●各教科等の学習に対する必要感の割合は，国語のみにおいて約90%の児童が肯定的な回答をしている。算数や理科や社会，技能教科においても，教科独自の学ぶ楽しさと学ぶ意義を実感させる指導に努めていく必要がある。
●家で学校の授業の予習をしているという設問に対して肯定的回答が56%で，家で学校の授業の復習をしているかという設問に対して肯定的回答が50%である。また，土曜日や日曜日など学校が休みの日の1日あたりの学習時間が1時間より少ない児童が31%のため家庭学習の時間が取れない児童がいる。授業の最後に次時の予告をして予習をする範囲を示したり，自分なりの不得手な分野を見つける場を設けたりすることで，予習復習をしようとする意欲付けをする。また，自主学習の内容や時間を具体的に示したり，見本となる自主学習を紹介したりすることで，家庭学習の習慣化をさらに図っていく。
●本やインターネットなどを利用して，勉強に関する情報を得ているという設問に対して，肯定的回答が31%で，難しい問題に出会うとやる気が出るという設問に対して肯定的回答が37.5%であることから，課題に対して自分なりに調べて解決しようという意欲が低い。その反面，自分ひとりの力で課題を解決しようとしているという設問に対して肯定的回答が87.5%であることから，課題解決方法を具体的に示し，解決する時間を設けて取り組むようにする。また，自分から課題を見つけ，取り組んでいる児童を称賛することで，学ぼうとする意欲を高めていく。
●授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが難しいと感じている児童は70%で，友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ではないと感じている児童が56.3%いることから，自分の考えを持ち，伝え合う力が弱いことが分かる。考え方，話し合いの進め方や発表の仕方のモデルを示し，思考力，判断力，表現の力を伸ばしていく必要がある。
●自分はクラスの役に立っていると感じていない児童が50%，自分の行動や発言に自信がない児童が43.7%であることから，自分に自信を持てず，自己有用感が低い児童がいることが分かる。当番活動や係活動に責任を持って取り組んでいる児童を認めたり，友達やクラス，学校のために良いことをした児童を称賛したりすることで，自分は人の役に立っていることに気付かせ，行動や発言に自信が持てるようにする。

宇都宮市立上河内西小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度，年度初めの懇談会で，全体で家庭教育の重要性を学習指導主任より話し，家庭学習強化週間を年2回実施することの協力をお願いし，実施している。	4年生では，家庭学習力は，県・市と少し上回るが，5年生は，かなり下回る結果となった。この取組前だったので，その後変容することを期待したい。
朝のパワーアップタイムの毎週実施	基礎力が身に付いていないので，毎週水曜に10分間プリント学習を行い，担任外の先生を割り当て，習熟に合わせた指導をする。	4・5年生ともに基礎力に課題が残る。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から，漢字・ローマ字，円・球・三角形の概念や平行四辺形の作図など，基礎的な知識や技能に関する問題で，特に市・県の平均より低かった。	復習により定着を図る学習の工夫	課題の内容を細かく明示し，学年末までに身に付けさせることが必要である。4・5・6年生は，過去の本テスト及び全国学力テストを何回も行う，1・2・3年生は課題の部分を共通に理解して重点的に行うなど，定着に向けて努力をしながら，児童の学習へ向かう気持ちも向上させたい。